大井川水系　家山川

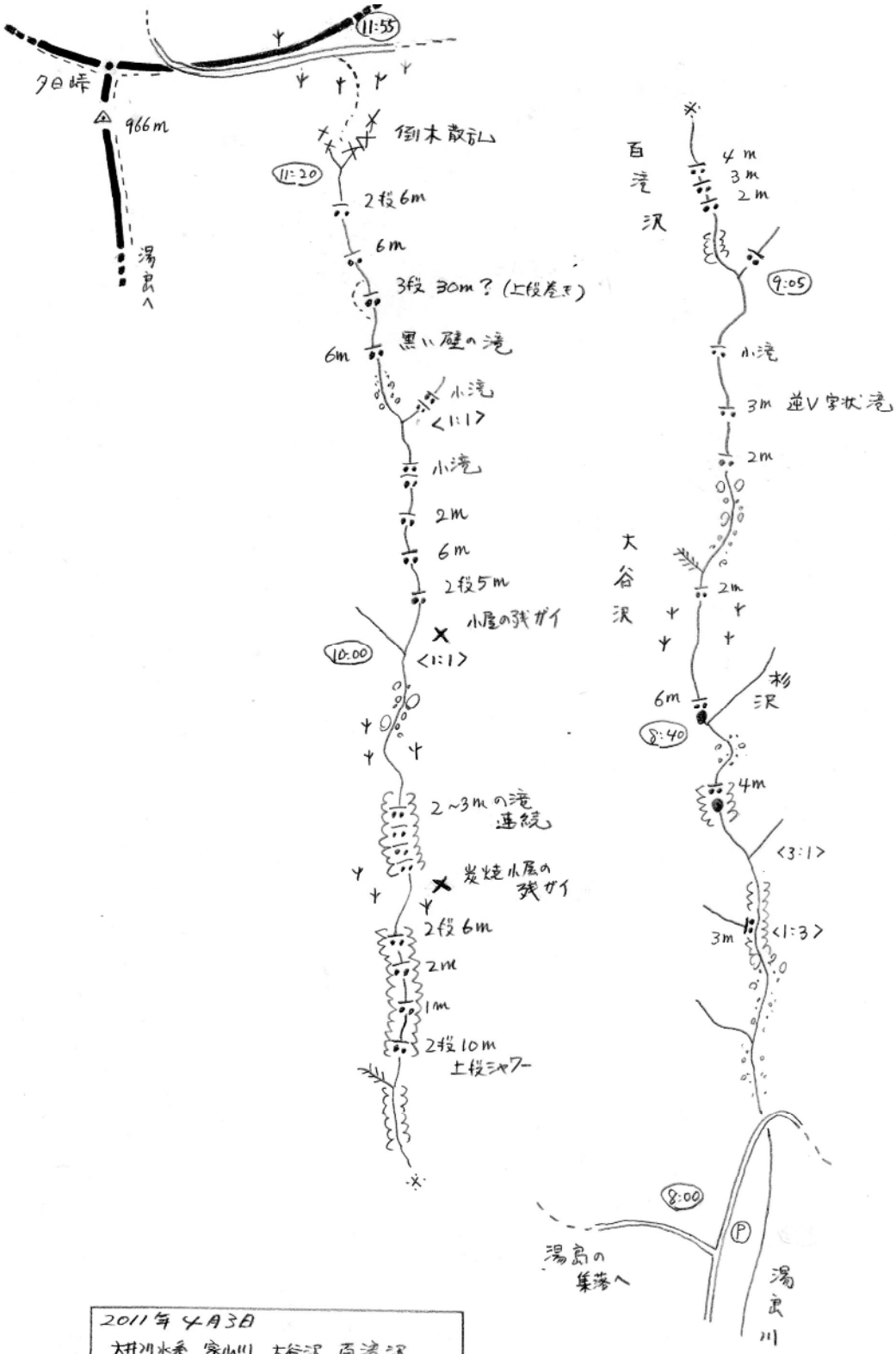
大谷沢・左俣（百滝沢）

メンバー:三井（単独）
遡行日:11年4月3日

「百滝沢」は大井川水系の家山川を遡った大谷沢の左俣という事になる。
この沢は静岡T会、K氏より最近教えてもらったもの（沢名の「百滝沢」も氏の命名との事）で、こんなところに目をつけて登っている人がいる、というのも感心するが果たしていかなる沢か、沢名からも興味津々ではある。

家山川を北上し、大まかに目星をつけた辺りの林道脇に車を止める。目の前の大谷沢は水量の少ない小沢状で、果たしてそれ程滝の多い支流があるのだろうか。
平瀬の河原が暫く続く。4mの滝を越えると間もなく二俣。右は「杉沢」で、本流側は釜を持った6mの滝がかかる。
水流右から直登。小滝が次々と現れ、左に支流を分ける。これがK氏命名の「百滝沢」の出合いとなる。
いきなり小滝の連瀑。その後も浅いゴルジュとなって小滝の連瀑となる。（後で振り返るとこの辺りが面白いところだった。）
滝はいずれも小振りで殆ど直登できる。いくつか枝沢を分け、黒い壁の滝を越えると3段30mの滝。下段、中段とも問題はないが上段は落差があり、少し立っているので登るなら確保がほしい。左から巻く。
沢は大分源頭っぽくなってくる。2段6mの滝を越えると沢はやけに倒木が鬱陶しい。見回すと源頭部の杉林は間伐が行われているようで切り倒された丸太があちこちに散らばっている。
これ以上沢に拘っても何もないだろう。
沢から離れ、尾根にあがる杉林の斜面をつづらに登って行くとあっけなく林道にでた。
林道は杉の植林されている尾根上につけられていて、林道が向きを変えた少し先に夕日峠があった。
夕日峠といっても尾根の連結したところにあり、本来は夕日山とか称すべきだろうが昔からそう呼ばれているようだし、地形図にもそう記されているしね。
山名に惹かれハイカーの訪れはそれなりにあるらしいが樹林の下にぽつんと木のテーブルが置かれているだけで何の風情もない。
西面が開かれて少し展望はあるものの目立った山が見える訳でもない。
行動食を食べ終わると長居は無用とばかり腰をあげ、さっさと湯島に向って山を駆け下って山行をおえる。

「百滝沢」、確かに滝は多かったが何せ短い沢だし、百滝まではね。
殆どの滝が直登できるしそこそこ楽しめるので悪くはないと思う。でも、厚木からわざわざ…というのはどうかなぁ。



2011年4月3日
大井川水系 家山川 大谷沢 百滝沢